

◎「ウクライナ支援」 News Letter (11) 2023年1月21日

ミッション・宣教の声

黒田 禎一郎

愛する皆様へ

主にあつて、祈りとご支援くださり心から感謝とお礼を申し上げます。
今年初のニュースレターは、ウクライナでのクリスマスの状況です。レポートはオデーサのアレキサンダー・ボイチェンコ牧師からです。オデーサはウクライナ南部に位置し人口約101万人。黒海に面した港湾都市で、州庁所在地です。首都キーウから約443km南に位置し、ウクライナ3番目の大都市です。ボイチェンコ牧師は、戦時下でウクライナ人がクリスマスをどのように迎えたか、次のようにレポートしています。

●「クリスマス」

ここ数週間で、戦地は頻繁に変化してきました。私たちはオデーサから戦闘が繰り返される最前線に向かって車を走らせ、住民と兵士に薬と食料品を届けました。人々の状況は想像を絶するもので、ロシアから解放された地域では、疲れ果ててやせ衰えたウクライナ人に出会いました。何ヶ月かぶりにパンを食べた人もいました。ロシア軍によって占領された時、人々には食糧品はなく森で採取できる物を口にしていました。私たちはこの地域に20,000斤のパンを配布する目標を立てました。電気が止まって暖房がなければ、厳しい寒さで多くの人が命を落としてしまうため、住民に都市部に避難 **<パンを待つ人々>** するよう勧めました。しかし誰もが経済的に移動手段を持っているわけではなく、村を離れたくない人もいました。一部の畑ではロシア兵の死体が見られ、犬が死体を食べていました。ロシア軍は死者を連れて行きませんでした。多くの畑が採掘されているため、誰も遺体を埋葬しようとしません。



●クリスマス・プレゼントに「パン」を

12月24日、私たちは「キッズ・クリスマス」を企画し、子どもたちを招待しました。場所はオデーサのコミュニティ・センターでしたが、子どもたちはクリスマス・イヴに軍用車両に護衛されて集まりました。また再び最前線の村々をまわり、パンを配り子どもたちにクリスマスの話をしました。これは重要なことで、人々に「グット・ニュース」(良き知らせ:福音)を伝えたいのです。彼らがすでに多くの苦しみを経験していますが、苦々しい思いや憎しみの余地を

与えたくないからです。これが私たちの祈りでもあります。特にクリスマスに。

● 霊的収穫は大きい

オデーサの私たちの教会（100人以上会員）は、現在15人しか残っていませんが、会堂は受け入れた難民でいっぱいです。それに他の地域からの難民も到着しています。このような戦時下であるウクライナでは、キリスト・イエスに出会い、洗礼を受けている方々があります。霊的な収穫は計り知れないものであり、私たちは神に無限に感謝しています。毎日聖書からみことばを語り、彼らに食事を配給しています。そのような中、電源が何度も切れるという事態に対処することを学びました。私たちの教会には発電機がありますが、この数ヶ月の寒さに対処できるかどうかはわかりません。私たちはこのような中、何度も決定を下さなければなりません。それは、「もうここで留まるべきか。あるいはもっと前進すべきか。」です。



<久しぶりのパンに預かる>

私たちもすでに3回攻撃を受けましたが守られました。軍用車両が目の前の地雷に衝突したこともありました。車両は爆発し、警官の1人の足がはぎ取られました。私たちは確かに、命は神の手中にあることを知っています。そして、神が私たちをお守りくださることも祈っています。(Idea #51/52, 2022)

* これらの生々しいレポートは、現地のクリスマスの様子でした。私たちに来ることは「祈り」と「支援」です。どうぞ続いて覚えてください。

◎ 祈りの課題

1. 戦争が速やかに停止・終息しますように
2. きびしい冬季にあって心身が支えられますように。
3. 戦争疲れを覚える方々に主の慰めと力が与えられますように。
4. 救われていない人々が、イエス・キリストに出会い回心しますように
5. 教会（集会）指導者の上に神の助けと導きがありますように

※ この News Letter は不定期発行で、メール送信しています。

メールをお持ちの方は事務作業簡素化のため、メールアドレスをお知らせください。皆様のお祈りとご支援に感謝します。